

令和7年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会・柏税務署

柏市長賞

笑顔を守る税金



柏市立酒井根中学校 第3学年 福井 咲葉子

昨年、祖母が「足が痛くて歩けない。」と急に言い出し、家族が介護保険を申請した。このとき、私は介護保険というのは「自治体から介護が必要ですよ」と認定されて初めて受けられる公的サービスシステムだと知った。

無事にケアマネージャーがつき介護計画を立てもらい、祖母は杖とベッド横に手すりをレンタルした。それ以外に食事の宅配サービスやデイサービスなど介護認定によって受けられるサービスが変わるらしい。「楽になりそうで良かった。」と安心していたところ、その数か月後に今度は祖父が散歩で転んで骨折し救急搬送された。骨折が肩と肋骨だった祖父に対し、病院から介護認定を受けるようアドバイスがあり、祖母と同じケアマネージャーがすぐに担当になり様々な手続きが行われた。祖父はその後手術をして肩に人工関節を入れるなどかなり大がかりな事態になつたが、色々なサービスをお願いして、今では無事に退院し助けられながら日常を送っている。そんな騒動があつたので介護保険のありがたさを両親は痛感したようだ。

その介護保険は財源の半分が税金であり、残りは四十歳以上の人人が支払う介護保険料だということを知つ

たのはその後のこと。私はまだ介護保険料を支払っていないが、これ以外にも税金のおかげで成り立つていて、私たちの生存権は憲法により保障されている。税金はその「生存権」を守る一番の要ではないだろうか。助けを必要とする人に等しく手が差しのべられるように、そのための財源として税金が必要なことはゆるぎないことだと私は思つている。